



ソフトバンクグループ株式会社

2025 年 3 月期 第 3 四半期 決算説明会

2025 年 2 月 12 日

免責事項

本資料は、ソフトバンクグループ株式会社（以下「SBG」）及びその子会社（以下SBGと併せて「当社」）並びに関連会社（以下当社と併せて「当社グループ」）に関する関連情報を提供するものであり、すべての法域において、いかなる証券の購入又は応募の申込みを含む、いかなる投資勧誘を構成又は形成するものではありません。

本資料には、当社グループの推定、予測、目標及び計画を含む当社グループの将来の事業、将来のポジション及び業績に関する記述など当社グループの将来の見通しに関する記述、見解又は意見が含まれています。将来の見通しに関する記述には、特段の限定を付すことなく、「目標とする」、「計画する」、「確信する」、「希望する」、「継続する」、「期待する」、「目的とする」、「意図する」、「だろう」、「かもしれない」、「であるべきである」、「したであろう」、「できた」、「予想する」、「推定する」、「企図する」若しくは類似する内容の用語若しくは言い回し又はその否定形などが含まれています。本資料に記載されている将来の見通しに関する記述は、当社グループが本資料の日付現在において入手可能な情報を踏まえた、当社グループの現在の前提及び見解に基づくものです。これら将来の見通しに関する記述は、当社グループのメンバー又はその経営陣による将来の業績を保証するものではなく、当社グループのビジネスモデルの成功、当社グループの資金調達力及びその資金調達条件の影響、SBGの重要な経営陣に関するリスク、当社グループの投資活動に関する又はこれに影響を与えるリスク、SBファンド（下記で別途定義）並びにその投資、投資家及び投資先に関するリスク、ソフトバンク株式会社及びその事業の成功に関するリスク、法令・規制・制度などに関するリスク、知的財産権に関するリスク、並びに訴訟を含むこれらに限られない既知及び未知のリスク、不確実性その他要因を含み、これらの要因により、実際の当社グループの実績、業績、成果又は財務状態は、将来の見通しに関する記述において明示又は黙示されている将来の実績、業績、成果又は財務状態と著しく異なる可能性があります。当社グループの実績、業績、成果又は財務状態に影響を与える可能性のあるこれら及びその他の要因については、SBGのホームページの「事業等のリスク」（https://group.softbank/ir/investors/management_policy/risk_factor）をご参照下さい。

当社グループ及びその経営陣は、これら将来の見通しに関する記述に明示されている予想が正しいものであることを保証するものではなく、実績、業績、成果又は財務状態は、予想と著しく異なる可能性があります。本資料を閲覧する者は、将来の見通しに関する記述に過度に依拠してはなりません。当社は、本資料に記載される将来の見通しに関する記述その他当社が行う将来の見通しに関する記述を更新する義務を負いません。過去の業績は、将来の実績を示すものではなく、本資料に記載される当社グループの実績は、当社グループの将来の実績の予測若しくは予想の指標となるものではなく、又はこれを推定するものでもありません。本資料に記載されている当社グループ以外の企業（SBファンドの投資先を含みますが、これに限られません。）に関わる情報は、公開情報等から引用したものであり、当社は、情報の正確性又は完全性について保証するものではありません。

商標について

本資料に記載されている企業、製品及びサービスの名称は、各企業の商標又は登録商標です。

重要なお知らせ—SBGの普通株式の取引、スポンサーなしADR（米国預託証券）に関する免責事項

SBGの普通株式の売買を希望する場合には、当該普通株式が上場され、主に取引が行われている東京証券取引所において売買を行うことを推奨します。SBGの開示は、スポンサーなしADR（以下「ADR」）の取引の促進を意図するものではなく、ADRの取引判断を行う際にこれに依拠すべきではありません。SBGは、SBGの普通株式に関するスポンサーなしADRプログラムの設定又はそれに基づき発行されるADRの発行若しくは取引について、過去及び現在において、参加、支援、推奨その他同意を行ったことはありません。SBGは、ADR保有者、銀行又は預託機関に対して、(i)SBGが1934年米国証券取引所法（以下「証券取引所法」）で定めるところの報告義務を負うこと、又は、(ii)SBGのホームページに、SBGが証券取引所法ルール12g3-2(b)に従って証券取引所法に基づくSBGの普通株式の登録の免除を維持するために必要な全ての情報が継続的に掲載されることを表明するものではなく、また、当該者又は機関は、そのように信じてはなりません。適用ある法が許容する最大限の範囲において、SBG及び当社グループは、SBGの普通株式を表象するスポンサーなしADRに関連して、ADR保有者、銀行、預託機関その他企業又は個人に対するいかなる義務又は責任を否認します。

上記の免責事項は、ソフトバンク株式会社やLINEヤフー株式会社などの、スポンサーなしADRプログラムの対象であるか又は将来対象となる可能性のある当社グループの証券に同様に適用されます。

本資料に記載されるファンド情報に関するお知らせ

本資料は、情報提供を目的として提供されるものであり、法律上、税務上、投資上、会計上その他の助言又はSB Global Advisers Limited（以下「SBGA」）、SB Investment Advisers (UK) Limited（以下「SBIA」）及びそれらの関係会社を含むSBGの子会社（以下併せて「SBファンド運用会社」）により運用されるいずれかのファンド（文脈に応じて、パラレル・ファンド、フィーダー・ファンド、共同投資ピークル又はオルタナティブ投資ピークルと併せて「SBファンド」）のリミテッド・パートナーシップ持分又は同等の有限責任持分の販売の申込み又は申込みの勧誘を行うものではなく、また、いかなる方法でもそのように依拠してはなりません。疑義を避けるために付言すると、SBファンドは、他のファンド同様、SBIAとその関係会社によって運用されているSoftBank Vision Fund L.P.（文脈に応じて、あらゆるパラレル・ファンド、フィーダー・ファンド、共同投資ピークル又はオルタナティブ投資ピークルと併せて以下「ビジョン・ファンド1」）、SBGAとその関係会社によって運用されているSoftBank Vision Fund II-2 L.P.（文脈に応じて、あらゆるパラレル・ファンド、フィーダー・ファンド、共同投資ピークル又はオルタナティブ投資ピークルと併せて以下「ビジョン・ファンド2」）及びSBGAとその関係会社によって運用されているSBLA Latin America Fund LLC（文脈に応じて、あらゆるパラレル・ファンド、フィーダー・ファンド、共同投資ピークル又はオルタナティブ投資ピークルと併せて以下「ラテンアメリカ・ファンド」）

を含みます。

SBファンド（ビジョン・ファンド1及びビジョン・ファンド2並びにラテンアメリカ・ファンドを含む）、SBファンド運用会社、SBファンド運用会社により運用される後続又は将来のファンド、SBG又はそれぞれの関係会社のいずれも、本資料に記載されている情報の正確性又は完全性について、明示又は黙示であるにもかかわらずこれを表明又は保証するものではなく、また、本資料に記載されているパフォーマンスに関する情報はSBファンドその他本資料に言及される企業の過去若しくは将来のパフォーマンス又はSBファンド運用会社により運用される後続ファンド、将来組成されるファンドの将来のパフォーマンスについての確約又は表明として依拠してはなりません。

SBファンドその他本資料に言及される企業のパフォーマンスに関する情報は、背景説明のみを目的として記載されるものであり、関連するSBファンド、本資料に言及されるその他のファンド又はSBファンド運用会社により将来運用されるファンドの将来のパフォーマンスを示すものとして考慮されるべきではありません。SBファンドの特定の投資対象に関する情報への言及は、それに含まれる範囲において、関連するSBファンド運用会社の投資プロセス及び運用方針を説明することのみを目的として述べられたものであり、特定の投資対象又は証券の推奨として解釈してはなりません。SBファンドのパフォーマンスは各個別の投資においてそれぞれ異なる可能性があります、個別に言及した取引のパフォーマンスは、必ずしも全ての適用される従前の投資のパフォーマンスを示唆するものではありません。本資料において記載及び説明される特定の投資は、関連するSBファンド運用会社が行う全ての投資を示すものではなく、本資料において記載及び検討される投資が利益を生んだ又は将来利益を生むと仮定すべきではありません。

本資料に記載されるSBファンドのパフォーマンスは、ポートフォリオ投資の未実現の評価額に基づくものです。未実現の投資評価額は、関連するSBファンド運用会社がそれぞれ特定の投資に関する状況に基づき合理的とみなす前提及び要因（例えば、評価日現在における類似の会社の平均株価収益率その他勘案事項等を含みます。）に基づくものです。しかしながら、未実現の投資評価額が本資料に記載されている金額又は本資料に記載されているリターンを算定するために用いられる金額で実現されるという保証はありません。また、かかる実現に関連する取引費用が未知であるため、当該取引費用は、かかる算定に含まれません。未実現額の見積りは、常に変化する多くの不確定要素の影響を受けます。関連するSBファンドの未実現の投資に対する実際の実現リターンは、いくつか要因がある中で特に、将来の運用実績、処分時の資産価格及び市況、関連する取引費用並びに売却の時期及び方法によって決まるものであり、これらの要因は全て、関連するSBファンド運用会社の評価の根拠となった前提及び状況と異なる可能性があります。

過去のパフォーマンスは、必ずしも将来の実績を示すものではありません。SBファンド又はSBファンド運用会社により運用される将来のファンドのパフォーマンスは、本資料に示されるパフォーマンス情報よりも大幅に低くなる可能性があります。各SBファンド又は関連するSBファンド運用会社により運用されるいずれか将来のファンドが、本資料に示される実績と同等の実績を達成するという保証はありません。

本資料に記載される第三者のロゴ及びベンダー情報は、説明目的のためにのみ提供されるものです。かかるロゴの記載は、かかる企業又は事業との提携又はその承認を示唆するものではありません。SBファンド運用会社、SBファンドのポートフォリオ会社、SBファンド運用会社により運用される将来のファンドの将来のポートフォリオ会社、又はSBGが、本資料に記載されるロゴを有する企業又は事業のいずれかと今後業務を行うという保証はありません。

SBGA 及び SBIA は、ビジョン・ファンド 1、ビジョン・ファンド 2 及びラテンアメリカファンドの運用に関して、相互に SBG からそれぞれ別個独立した業務プロセスを採っています。SBGA 又は SBIA によって運用される SB ファンドは、それぞれ SBGA 単独又は SBIA 単独で運用されています。

[登壇者]

取締役 専務執行役員 CFO 兼 CISO
常務執行役員 CSusO 経理統括
SB Investment Advisers &
SB Global Advisers CFO
Arm Executive Vice President and CFO

後藤 芳光（以下、後藤）
君和田 和子
ナブニート・ゴビル（以下、ゴビル）
ジェイソン・チャイルド（以下、チャイルド）

登壇

司会： それでは後藤より、ソフトバンクグループ株式会社（以下「SBG」）の連結決算概要および事業概要につきましてご説明申し上げます。

後藤： 私が決算説明会をこうした形でさせていただくのは2年半前からでしょうか。それまではSBG 代表取締役 会長兼社長執行役員の孫がやっていたわけですが、AI に関して、ソフトバンクグループの行く道だけを真剣に考えて取り組みたいという彼の強い意志を受け取り、2年半続けてまいりました。その間、孫さんは何をやっているのだというご質問が非常に多かったと思います。

私も都度、状況をご報告してきたつもりですが、今四半期の発表においてようやく、進むべき方向についてのメッセージを孫が具体的に出したと思います。二つの大きなイベントがありました。



そもそも目指すべき道は、ASI。AI が人間の知性を大きく上回る時期が来る。そのための道のりや、そこまでにかかる時間をどれだけ短縮できるかを考えてきたわけです。



大きなテーマは、あえて絞ればこの四つだろうと。まず、すべての心臓部にあたる AI チップ。ここに私たちのグループの最大の強みがあるわけです。アームが培ってきた AI チップの設計能力が、AI の発展のためにはこれからも不可欠なピースであると。そしてこれを基に、さまざまなディープラーニングからさまざまな仮説を立てていく。そのために必要なコンピューティング環境を準備しなければいけない。

データセンターを非常に大きな規模で、できるだけ早く準備して、この AI の進化に役立てたい。そのために必要なのは、これまた非常に巨大な電力です。また、私たちが 10 年前から取り組んできたロボティクスの分野は、おそらくロジスティクスの分野と並んで、AI が最も機能するエリアだと思います。

これまで培ってきた強みを、今後さらに展開していきたいと思いますが、ロボットはまだこの先の話で、まずやるべきはチップ面の強化とデータセンターへ電力の確保です。



今回、Stargate というプロジェクトを発表しました。



ホホワイトハウスでトランプ米大統領と並んで、概要についてお話ししました。この壇上に、孫の古くからの友人でもある Oracle のラリー・エリソンも、これからわれわれがタッグを組んでいく OpenAI のサム・アルトマンも登壇しています。



そして、これからスタートする AI 化の流れの中で、どういう商用サービスが提供できるのか。



それがクリスタル・インテリジェンス。どういうサービスかは先日のソフトバンク株式会社（以下「SBKK」）の決算発表でも説明があったと思いますが、後ほど少しご説明したいと思います。

（2月3日に開催した）サム・アルトマンとの発表会には、500社以上、1,000人の企業幹部の皆さまに臨場で参加いただきました。アナリストの皆さまや金融機関などの方々にもお越しいただきました。

具体的なサービスが今日からできるわけではありません。ただ、世の中にどういうサービスが必要とされるかを、われわれもこれから具体的に詰めながら、できたところからローンチしていきたいと思います。

2024年度第3四半期ハイライト

- 1 NAV29.3兆円、LTV12.9%、いずれも安定的に推移
- 2 手元流動性は9月末比1.2兆円増の5.0兆円に
- 3 4-12月期の純利益6,362億円(前年同期比1.1兆円改善)
- 4 25年1月にStargate、2月にクリスタル・インテリジェンス発表

純利益:親会社の所有者に帰属する純利益

9

さて、大きなテーマは後ほど説明するとして、今期のハイライトからまいりたいと思います。

まず、われわれの重要指標である Net Asset Value（以下「NAV」）は 30 兆円弱、そして、安全性の指標である Loan to Value（以下「LTV」）も 12%台と、いずれも安定的に推移していて、まったく問題ないレベルです。手元流動性も、この 3 カ月間はさらに増加して、5 兆円を確保しています。

9 カ月（4 月～12 月期）の純利益は 6,362 億円で、これも前年同期比 1.1 兆円の改善です。4 番目は第 3 四半期の後に行った、Stargate やクリスタル・インテリジェンスという、われわれの新機軸の発表です。

重要指標（2024年度Q3）

	2024年9月末		2024年12月末
NAV (時価純資産)	29.0 兆円	▶	29.3 兆円
LTV (純負債／保有株式価値)	12.5%	▶	12.9%
手元流動性	3.8 兆円	▶	5.0 兆円

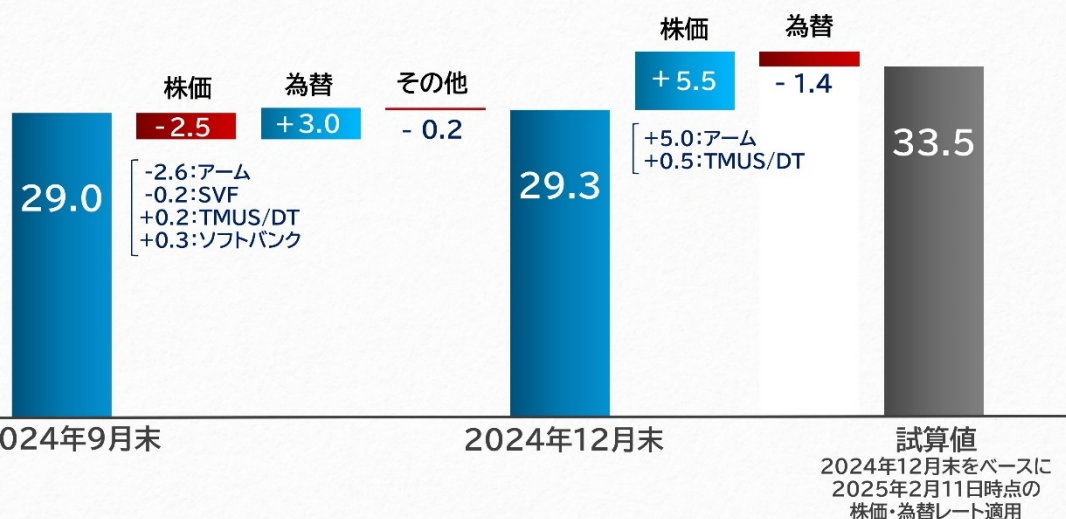
NAVおよびLTVの詳細は、Appendix「NAV・LTVの定義及び算出方法（2024年9月末時点）」「NAV・LTVの定義及び算出方法（2024年12月末時点）」を参照
手元流動性＝現金及び現金同等物＋流動資産に含まれる短期投資＋債券投資＋コミットメントライン未使用枠。SBG単体ベース（SB Northstarを除く。ただし現金及び現金同等物並びに債券投資は含む。）

11

さて、重要指標から説明します。NAV も LTV も、それから手元流動性も、もう極めて安定、安全なレベルで推移しています。

NAVの増減要因

(兆円)

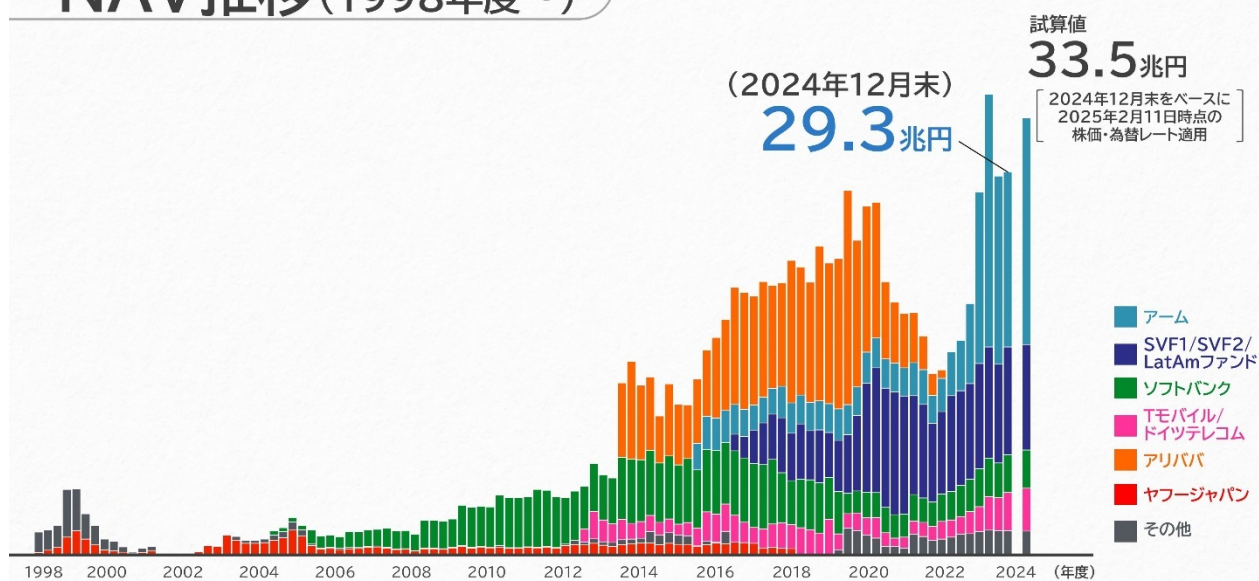


NAVの詳細は、Appendix「NAV・LTVの定義及び算出方法（2024年9月末時点）」「NAV・LTVの定義及び算出方法（2024年12月末時点）」「NAV・LTVの定義及び算出方法（2024年12月末時点）」を参照
 為替：2024年12月末時点の現地通貨建ての保有株式価値、有利子負債および手元流動性について比較対象時点の為替レートで円換算したときのNAVとの差額。ただし、SVF1-2-LatAmファンド・SB Northstarは米ドル建てとみなして試算
 試算値に関する情報は、2024年12月末時点の資産・負債構成は変わらない前提で、2025年2月11日時点の株価・為替レートを適用して試算した参考値であり、将来の値を保証・示唆するものではない。

12

NAV に関しては、この12月末は30兆円弱でしたが、2月11日時点では33.5兆円です。12月末までの積み上げの内訳は、株価は若干下がり、為替で取り戻した状況でしたが、1月以降は株価が非常に伸びています。アームとTモバイルが大きく貢献した結果、33.5兆円というレベルに到達しています。

NAV推移(1998年度～)

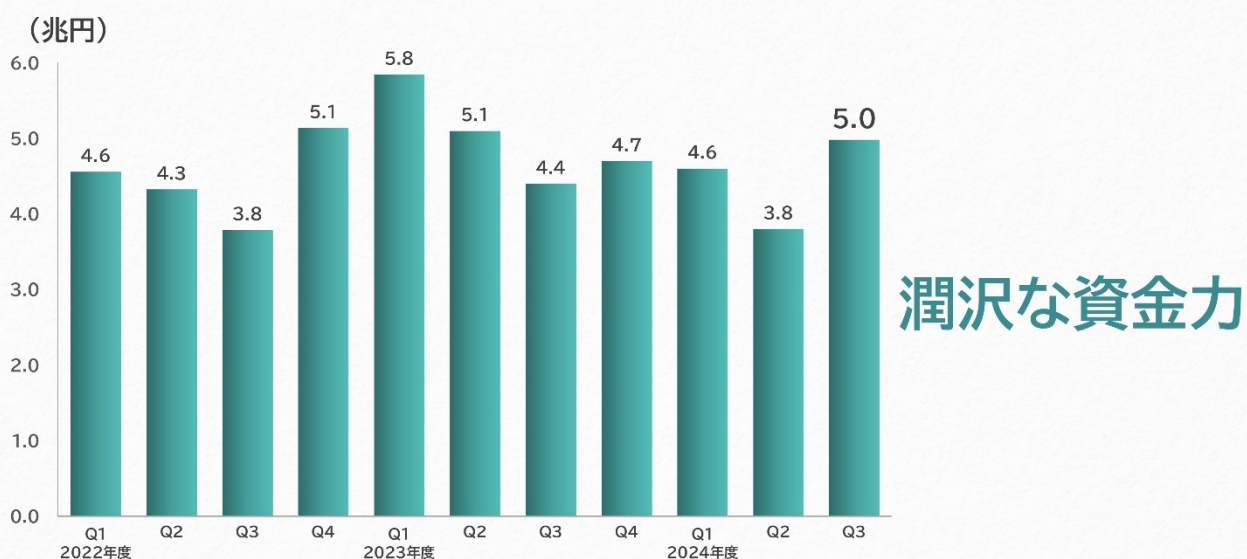


13

これはソフトバンクグループの歴史で見て、過去最大値にかなり近い数字です。われわれが本格的に取り組んでいく AI のステージはまだ始まったばかりです。大事なのは、このトレンドをここからしっかり維持していくことです。決算発表で毎回申し上げていますが、良いときも悪いときも3カ月の株価の動きで一喜一憂する必要はまったくないと思っています。

ただ、1年、3年、5年、ひいては10年でトレンドがしっかりと右肩上がりに実現できているかどうか、私たちにとって、また投資会社として何より重要なことだと考えています。

手元流動性



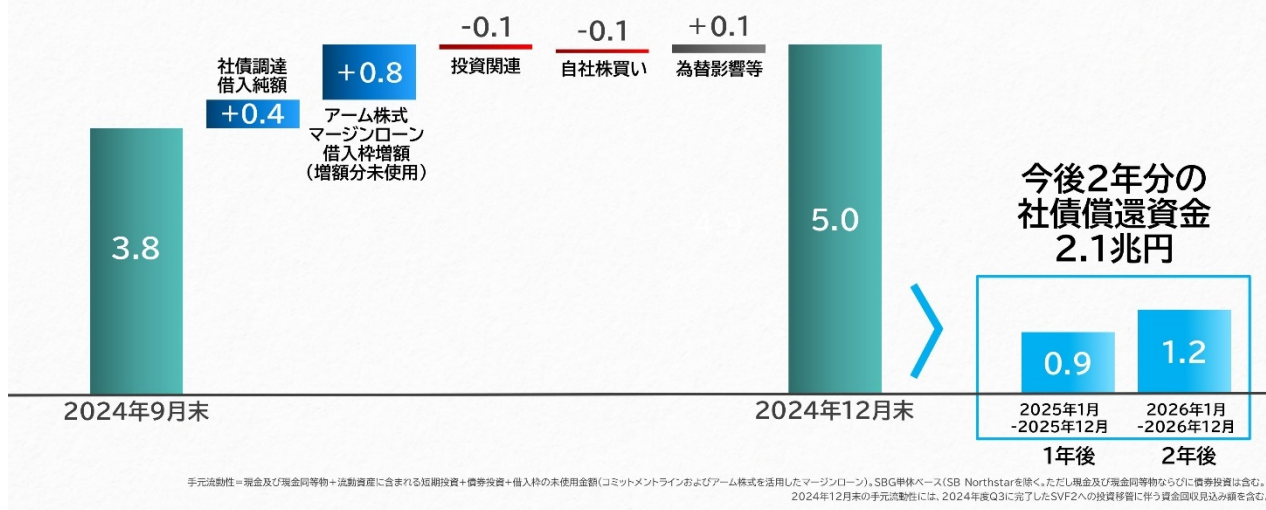
手元流動性＝現金及び現金同等物＋流動資産に含まれる短期投資＋債券投資＋借入枠の未使用金額(コミットメントラインおよびアーム株式を活用したマージンローン)。SBG単体ベース(SB Northstarを除く。ただし現金及び現金同等物ならに債券投資を含む。)

14

手元流動性は、こちらの推移のとおりです。過去3年にわたって、非常に安定して維持できています。

手元流動性の増減要因

(兆円)

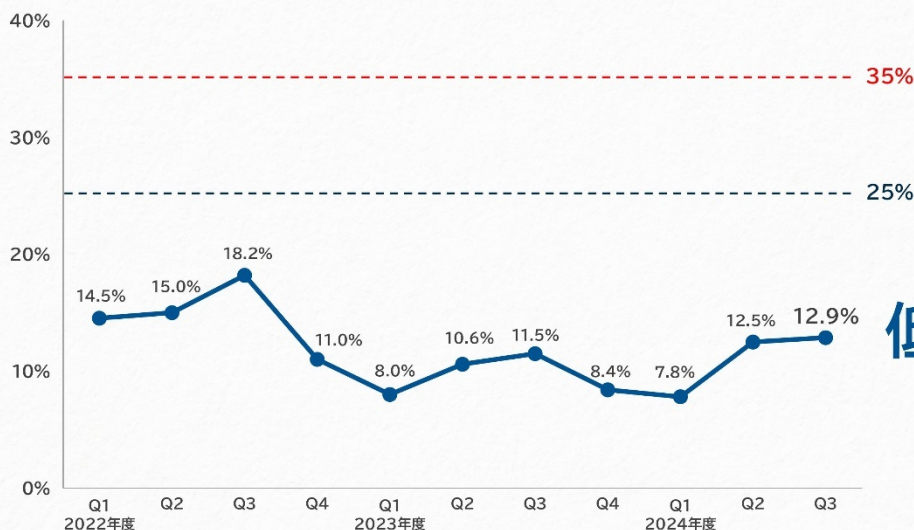


この12月末に金額が増えているのは、アームの株式を活用したマージンローンの枠を8,000億円増額したということもあります。また、社債の起債によって、4,000億円ほど伸びています。

今後2年分の償還資金というのは右にある2.1兆円です。財務ポリシーとしてこの金額を維持していくことをずっと申し上げているとおりで、現実、非常に安全性は高いということです。

LTV

アセットバック・ファイナンス除く



低水準を維持

各四半期末時点
LTVの算出方法については、各四半期決算説明会プレゼンテーション資料に記載の「NAV・LTVの定義及び算出方法」を参照

LTV、いわゆる担保掛け目として皆さまに継続的に見ていただいている数字も安定しています。だいたい12%から13%というレベル。毎度申し上げているとおり、この数字はまだまだ安全すぎるレベルだと思います。

連結業績

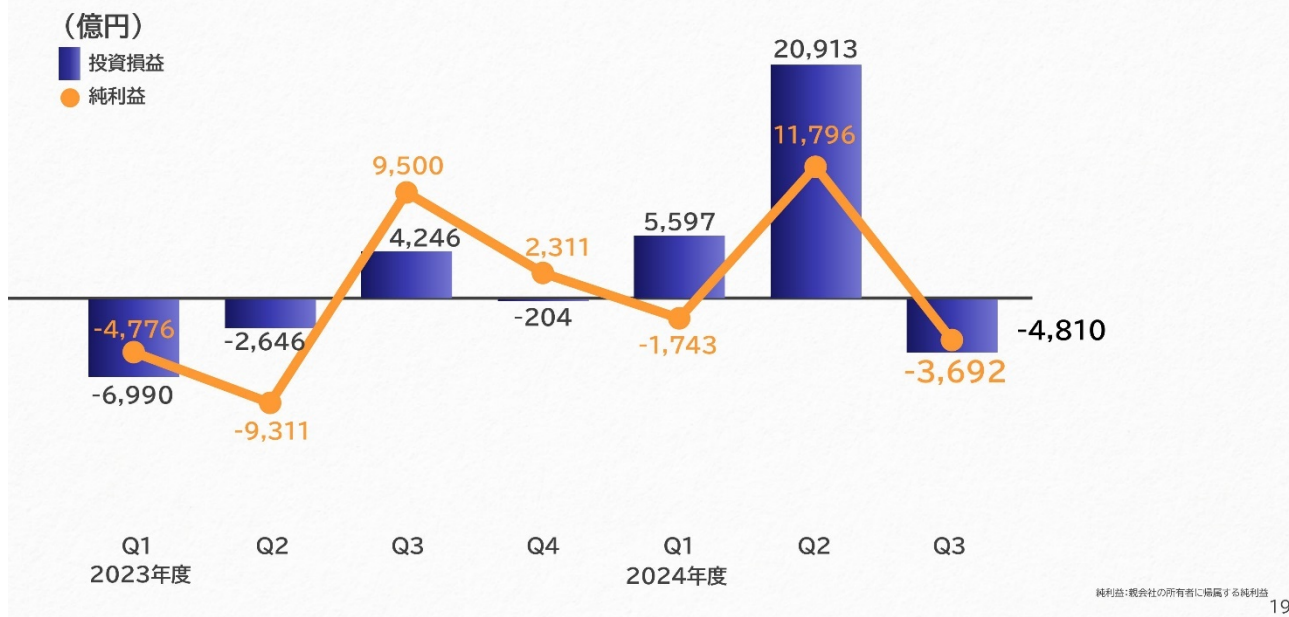
(億円)	2023年度 Q1-Q3	2024年度 Q1-Q3	増減額
売上高	50,019	53,026	+3,007
投資損益	-5,389	21,700	+27,090
税引前利益	2,641	12,709	+10,069
純利益	-4,587	6,362	+10,949

純利益:親会社の所有者に帰属する純利益

18

次に連結業績です。売上高、投資損益、税引前利益、純利益、いずれの数字も極めて順調です。売上高は、持株会社の指標としてはあれですけれども、投資損益の2兆1,700億円は前年同期比で2兆7,000億円増、税引前利益1兆2,700億円は、前期比で約1兆円強の増加。純利益6,362億円は、前年同期比で1兆円超えと、伸びを確認いただけるかと思います。

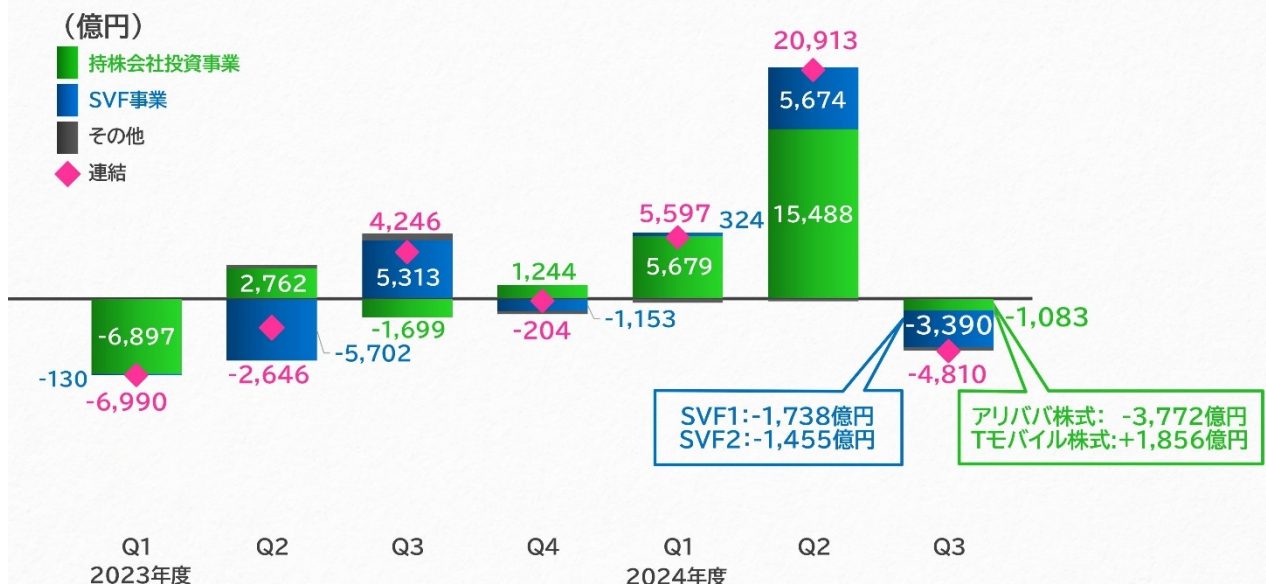
投資損益および純利益（四半期）



19

四半期別の投資損益、純利益を見ていただくと、でこぼこするわけです。この第3四半期はいずれも少しずつマイナスとなっています。ただ、これも四半期の数字のみをもって語れるわけではありません。

投資損益（四半期）

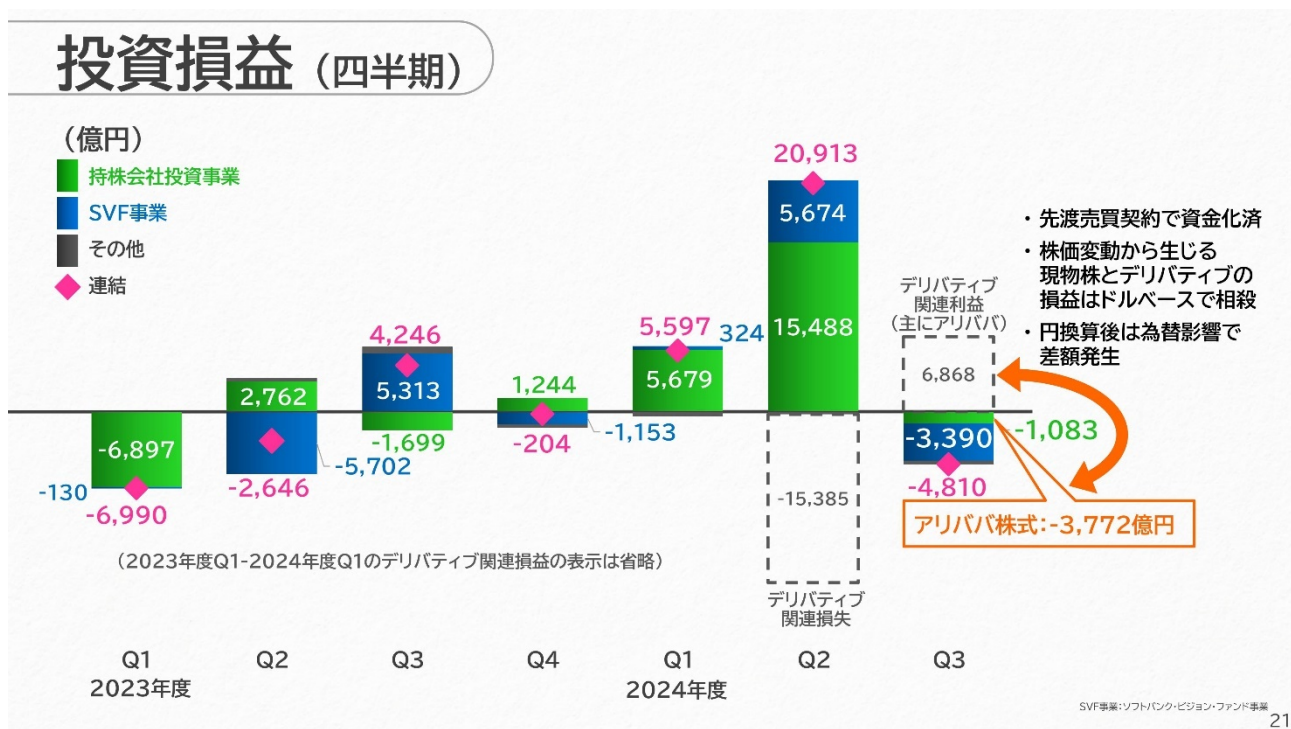


20

少し数字を分解してみようと思います。投資損益を見ると、大きくは持株会社本体とソフトバンク・ビジョン・ファンド（以下「SVF」）の二つで投資は成り立っているわけです。持株会社の方が約 1,000 億円のマイナスで、SVF はマイナス 3,300 億円というのが、この四半期です。

ただもう少し分解すると、持株会社の1,000億円のマイナスというのは、アリババ株の評価損がマイナスで3,770億円出ているのです。アリババ株の資金化はもう終了しているのですが、先物取引分の株式は、まだわれわれの手元に残っています。

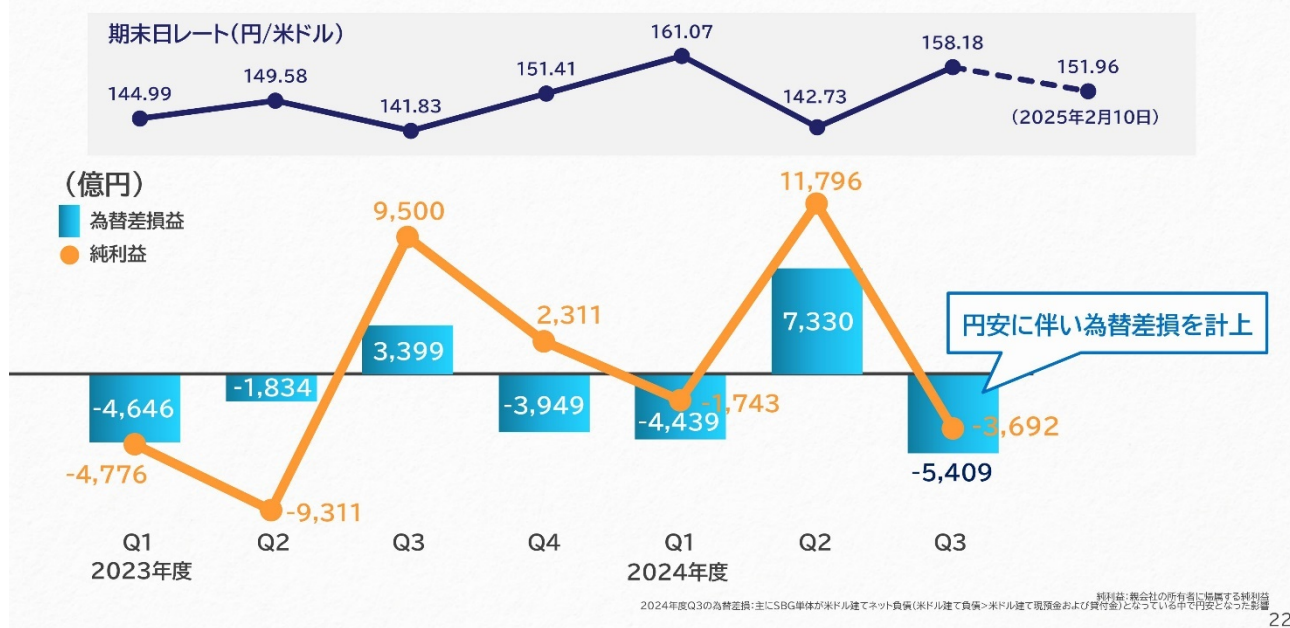
株式の評価とデリバティブの評価、二つの評価を見ていかなければいけないのですが、株価の下落そのものは、このチャートにストレートに出てくるのです。アリババ株はマイナス3,700億円で、Tモバイル株が1,800億円伸びていたので、ネットしてマイナス1,000億円という数字だったので。



ただ、デリバティブ、先物でヘッジしていますから、株価が下がったときはデリバティブの評価は上がるわけです。ですので、この期の損益の本質的な評価というのは、特にアリババ株に関して言うと、投資損失3,770億円はあったけれど、デリバティブ利益は6,800億円あるので、ネットアウトされているということなのです。

もともと確定している数字が期中でぶれて表現されていますが、先渡売買契約が終了する段階では、ネットで相殺されると見ていただければと思います。ですから、この数字の見方は皆さまそれぞれに、いろいろな見方をされてよいと思います。アリババの数字を全部差っ引いて見ると、アリババ以外の実力値のグラフも作れるかもしれません。そのように表を見ていただければと考えています。

為替差損益の純利益への影響（四半期）



もう一つ、影響が大きいのが為替差損益です。もちろん、投資のパフォーマンスは為替も含めて見るという考え方もありますが、企業の業績やバリュエーションの伸びと為替は別の生き物だということも、これまた事実なわけです。今回は、円安に伴って 5,400 億円の為替差損を計上しています。こういう形で純利益が影響を受けているというのがこの第3四半期の数字です。

為替影響（2024年度Q3）

円安はNAVと資本にプラスの影響

(2024年9月末) (2024年12月末) (2025年2月10日)
1米ドル= 142.73円 → 158.18円 → 151.96円

NAVへの影響

+3.0兆円

会計への影響

資本

+2.0兆円

連結純利益

-0.5兆円

NAVの影響: 2024年12月末時点の現地通関建ての保有株式価値、有利子負債および手元流動性について比較対象時点の高替レートで再計算したときのNAVとの差額。ただし、SVF1・2・LatAmファンド・SB Northstarは米ドル建てとみなして純損益会計への影響は2024年度Q3の連結損益計算書の為替差損益および連結損益計算書のその他の各利益要素計額に含まれる在外営業活動体の為替換算差額の増減額

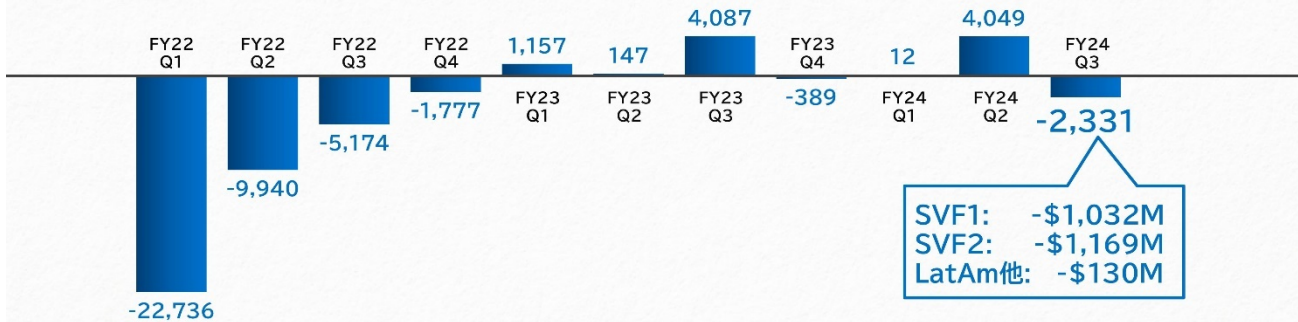
実際に、9月末に1ドル142円だったドル円は、12月末には158円でした。約15円の動きというのは、実はアセットベースでは3兆円のプラスになるのです。従って、NAVの増加は株価の影

響もあります。また、会計への影響は、今度は逆に資本と純利益にはそれぞれプラスとマイナスの影響が出てくるということです。

SVF:投資損益 (四半期)

USDベース
(SVFセグメント)

(\$ M)



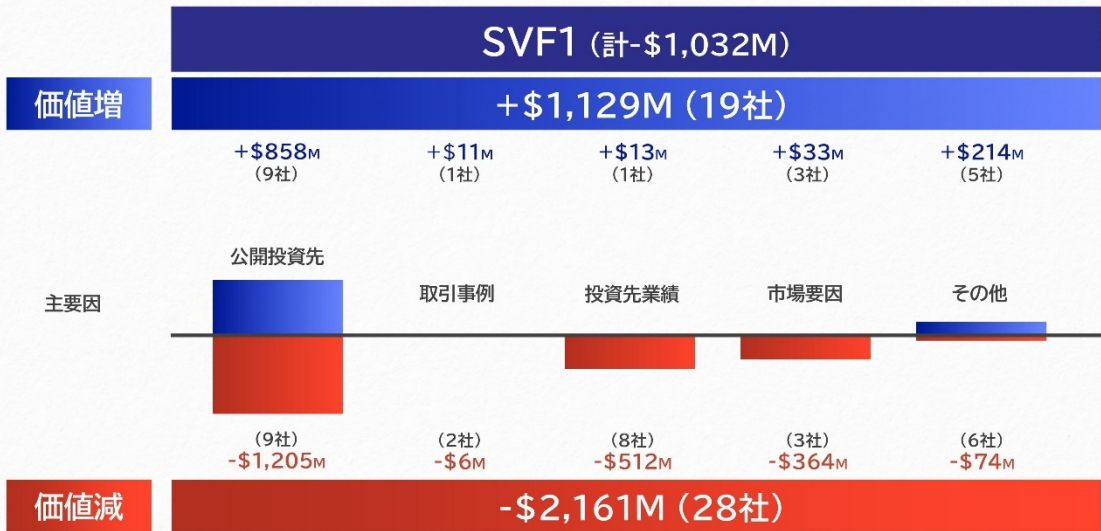
投資損益(四半期):SVF事業からの投資損益(セグメント情報)の四半期累計額
(当社連結財務諸表の作成における為替換算額、デリバティブ関連損益含む、外部投資家持分および税金等控除前)

25

それでは、まず SVF から話ししていきたいと思います。連結の投資損益で申し上げたとおり、SVF の第 3 四半期 (10 月~12 月) は 23 億米ドルの損失を計上しています。SVF1 が 10 億米ドル、SVF2 が 12 億米ドルというのが大きな内訳です。

SVF1:投資損益 (2024年度Q3)

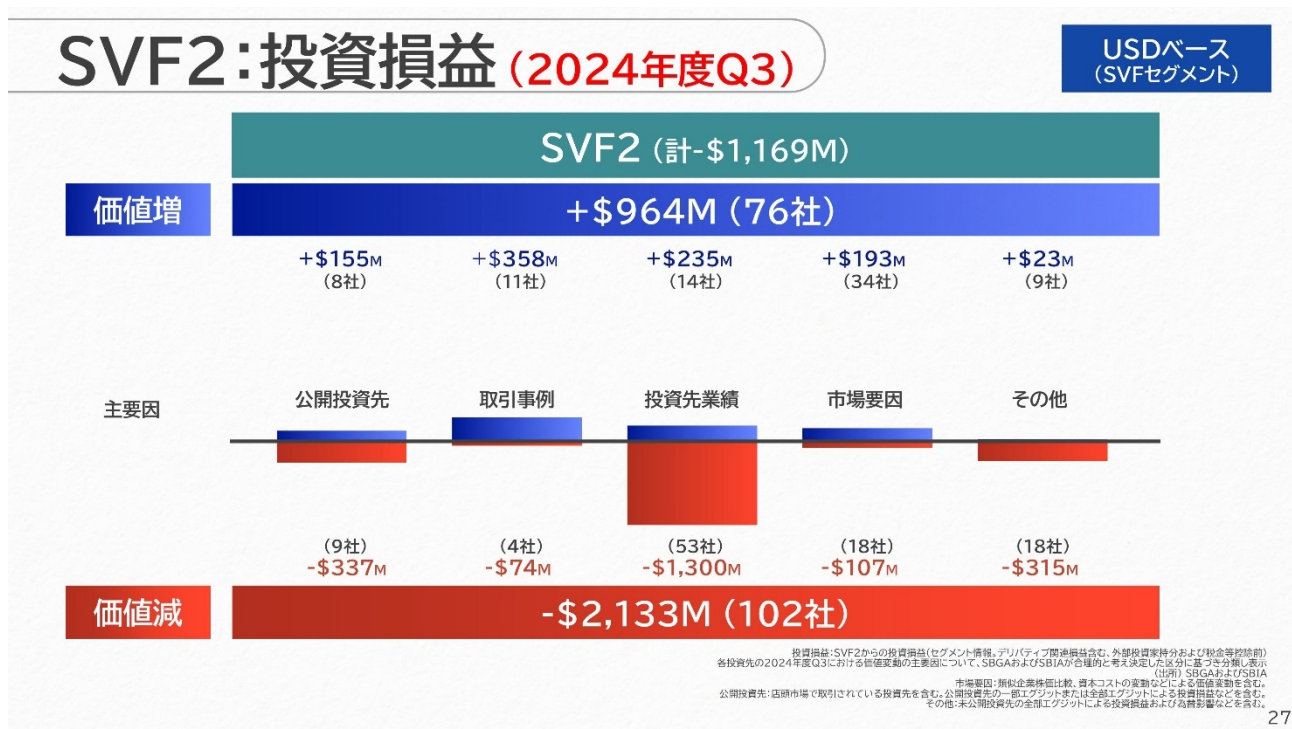
USDベース
(SVFセグメント)



投資損益:SVF1からの投資損益(セグメント情報、デリバティブ関連損益含む、外部投資家持分および税金等控除前)
各投資先の2024年度Q3における価値変動の主要因について、SBGAおよびSBIAが合理的に考え決定した区分に基づき分類し表示
(注) SBGAおよびSBIA
市場要因:類似企業株価比較、資本コストの変動などによる価値変動を含む
公開投資先:店頭市場で取引されている投資先を含む、公開投資先の一部エグジティブまたは全額エグジティブによる投資損益を含む
その他:未公開投資先の全部エグジティブによる投資損益および為替影響などを含む

26

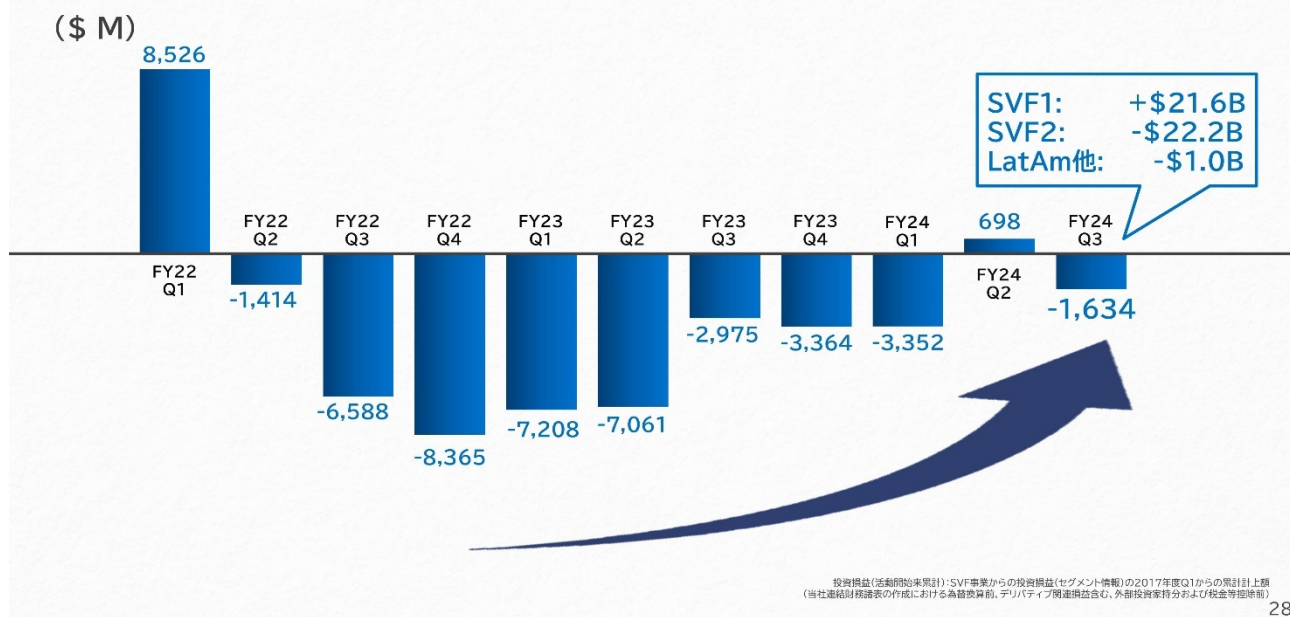
最初に、SVF1 から見ていただこうと思います。この主要因と書いてあるグラフの一番左ですね。ここは公開株の上下です。Grab など公正価値が上がったものもあれば、Coupang のようにちょっと下落したものもあります。Coupang については韓国の政治の混乱などによる下落というところは、ちょっとやむなしかなと思います。



次に SVF2 は、未上場のポートフォリオが多いということもあり、この期に関しては業績要因など、公正価値の減少が大きく影響してきたかなと。また、ちょっと計算が複雑になりますが、円やウォンに対する米ドル高がマイナスに影響している部分もあります。

SVF:投資損益 (活動開始来累計)

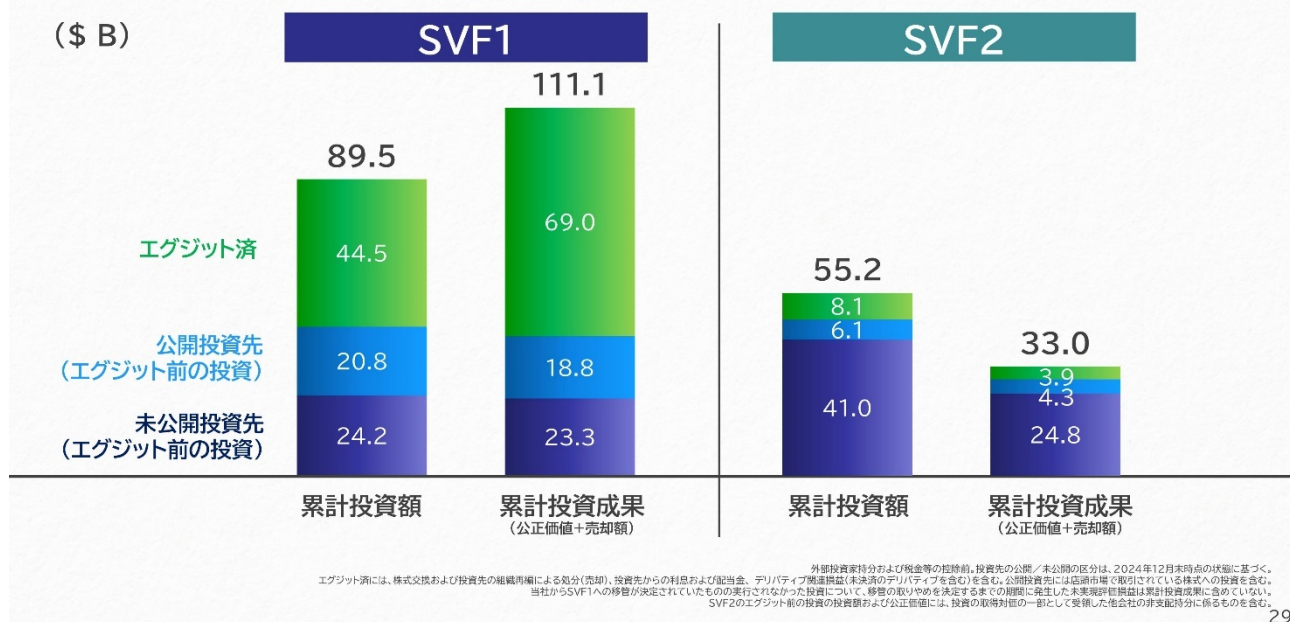
USDベース
(SVFセグメント)



28

2022 年度から四半期ごとの推移を見ていくと、第 2 四半期で黒字化しただけに、今期またちょっとマイナスになったのはやや残念ではありますが、まずは、今後の推移をまたしっかり見ていただきたい。トレンドそのものには、私たちもしっかり自信を持っています。

SVF:累計投資成果 (2024年12月末時点)



29

累計の投資成果を見ていきます。SVF1 は、新規投資は行っていないので既存ポートフォリオのモニタリングが中心となります。約 700 億米ドルのエグジットをすでに実行しており、残ったポートフォリオにも今後の価値向上をもたらしてくれるような良いポートフォリオがあります。

SVF2:2024年度Q3のIPO銘柄

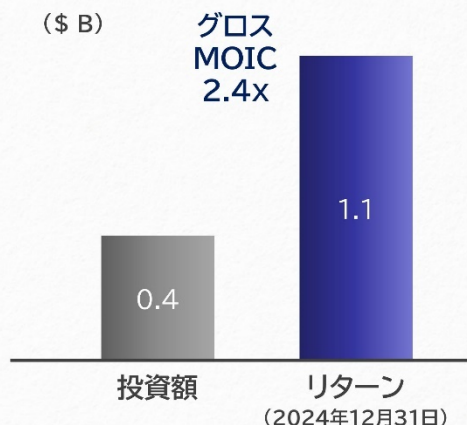


Swiggy

インドを拠点に食品配達および即時配送サービスを展開

2024年で世界最大のテック株IPO

上場証券取引所	・NSE (インド国立証券取引所) ・BSE (ボンバイ証券取引所)
公開日	2024年11月13日
公開価格	INR 390/株 -仮条件(INR 371~390)の上限
上場時 時価総額	約INR 873.0B (約\$10.4B)
売出総額	約INR 113.3B (約\$1.3B)



2024年で世界最大のテック株IPO: プライマリーとセカンダリーの合計で総額約\$1.3Bを売り出し、\$1=INR84.0813で換算
リターン: 取得原価に2024年12月31日時点の累計実現利益および未実現利益(グロス)を加えた金額
グロスMOIC: 2024年12月31日時点における取得価額合計に対する実現額および未実現評価額合計の倍率。エグジティブ向けに投資家に課される税金およびファンド関連費用控除前。投資先について予想される実際のパフォーマンスや将来のパフォーマンスを示すものと解釈されるべきではない。
個別の投資のパフォーマンス(純額)については、異出に当たり手数料および経費の配分について恣意的な仮定を置く必要があることから、本スライド記載の情報は含まない。
本スライドに記載の投資への言及は、特定の投資または証券の推奨として解釈されるべきではない。本スライドに記載の投資は、SVF2が実施した投資のうち、IPOを行った投資先を例示するために選択されたものであり、SVF2の投資先を網羅するものではない。
SVF2の投資先一覧は<https://visionfund.com/portfolio>に掲載。
本スライドに記載の投資全体のパフォーマンス(純額)については、異出に当たり手数料および経費の配分について恣意的な仮定を置く必要があることから、本スライド記載の情報は含まない。過去の業績が将来も継続することを保証するものではない。

31

今年度上場した銘柄のうち、この四半期ではインドの Swiggy が目立つかなと思います。2024 年のテック株で世界最大の IPO です。上場時の時価総額がドルベースで約 100 億米ドルを超えました。上場後 3 カ月、株価はまだ上がったり下がったりしていますが、中長期のトレンドとして大いに期待できる銘柄だろうと考えています。

SVF2:2024年度Q3における主な新規投資

AI革命を牽引する企業への投資に引き続き注力



databricks

統合クラウドプラットフォームを
企業向けに提供し、AIインフラ
およびデータベースの
構築・拡張・運用管理を支援

DAYONE

アジアで最先端データセンターの
開発・運営事業を展開



HELION

次世代型核融合技術の開発により
低コストでクリーンなエネルギーの
提供を目指す

!QuEra>

安定性・拡張性を兼ね備えた
量子コンピューターを開発

2024年12月末時点から過去3カ月間にSVF2が実施した主な新規投資を含む。本スライドに記載の情報は、SVF2についてのみ言及されており、あくまで例示的な目的で提供されている。
本スライドに記載の投資は、過去3カ月間の投資活動を例示するために選択されたものである。本スライドに記載の投資への言及は、特定の投資または証券の推奨として解釈されるべきではなく、将来行われる投資が、本スライドに記載の投資と買またはパフォーマンスに
おいて同等であると想定されるべきではない。過去の業績が将来も継続することを保証するものではない。

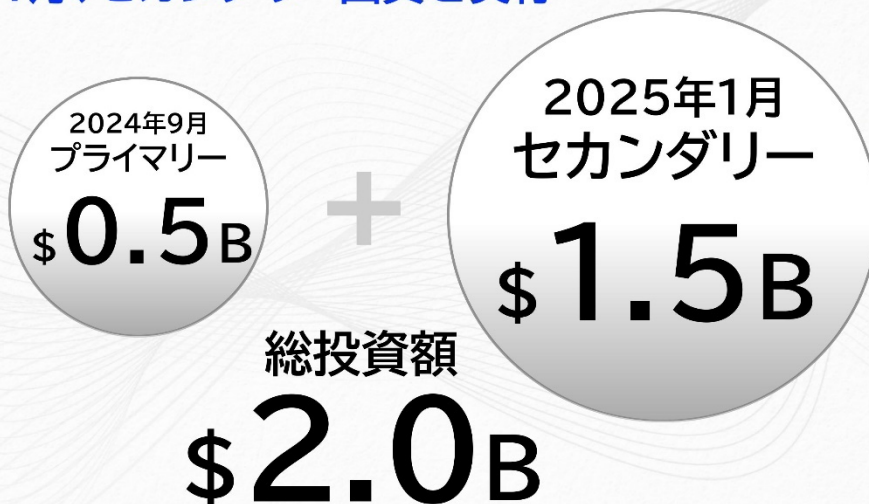
32

ほかにも SVF2 で、こんなところにも新規投資をしました。Databricks は企業向けの統合クラウドの提供を行っています。また、DayOne はアジアで最先端のデータセンタービジネスを展開して

います。HELION は次世代の核融合電力発電等、核融合開発の企業です。また、QuEra は量子コンピュータです。この3カ月間も、今後大いに期待できる銘柄に投資をしてきた実績があります。

SVF2:OpenAIへの追加出資

2025年1月、セカンダリー出資を実行

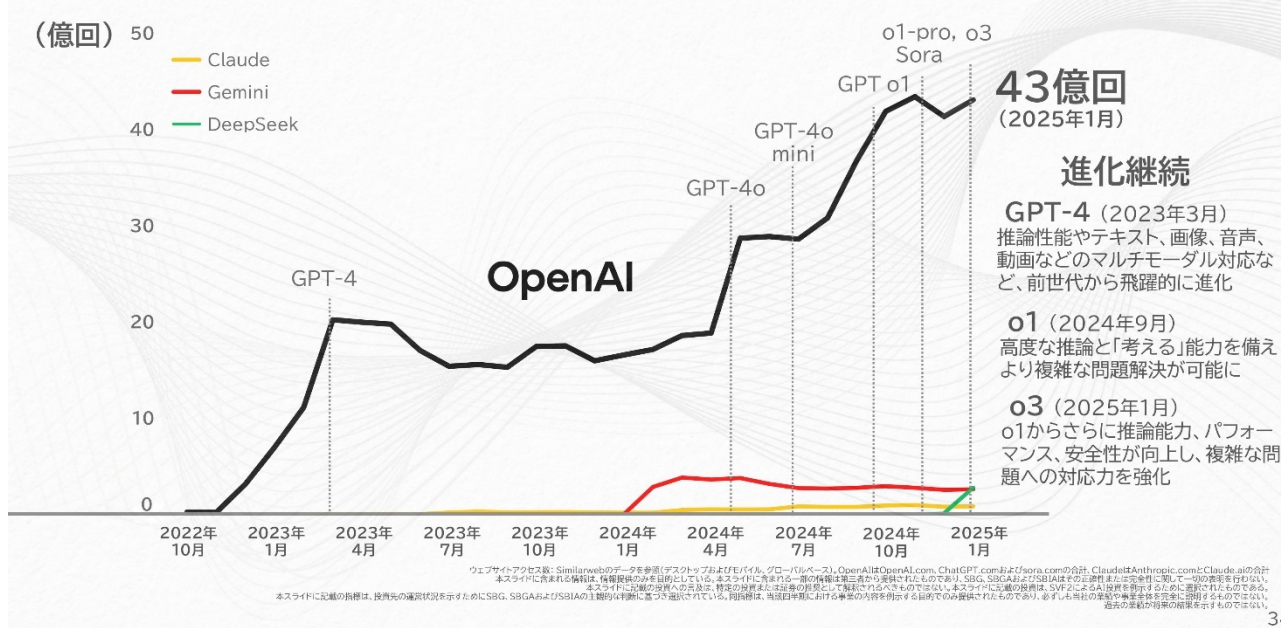


本スライドに含まれる情報は、情報提供のみを目的としている。本スライドに記載の投資への言及は、特定の投資または証券の推奨として解釈されるべきものではない。本スライドに記載の投資は、SVF2によるAI投資を創示するために選択されたものである。過去の業績が将来の結果を示すものではない。

33

OpenAI に関しては、第2四半期で5億米ドルのプライマリーで投資を行いましたが、今年1月にセカンダリーで15億米ドルの追加出資を行っており、総投資額は20億米ドルです。

OpenAI: 月間ウェブサイトアクセス数

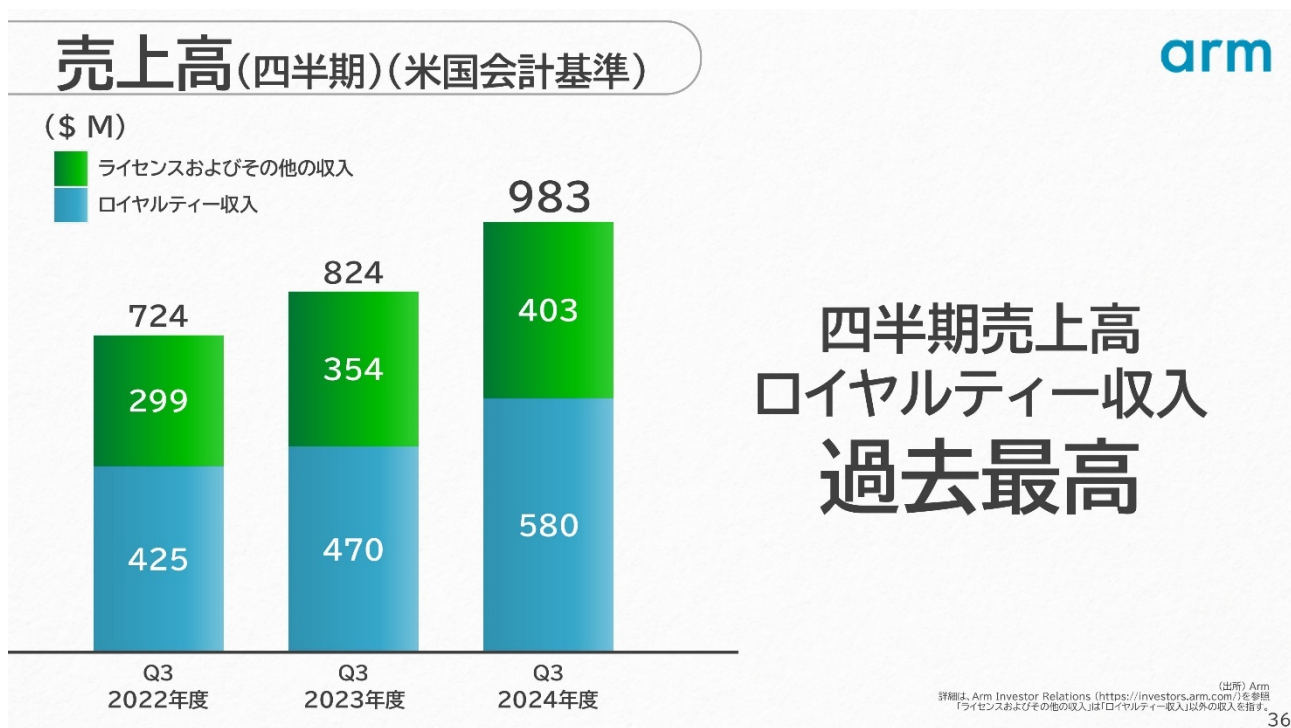


34

月間ウェブサイトのアクセス数が、他のサービスと最も比較できるチャートだと思いますが、OpenAI のサービスは、圧倒的な差を付けて伸びています。今後もやはり、OpenAI のサービスを

どれだけ皆さまの手元にお届けできるか。それをソフトバンクグループが OpenAI と一緒になってやっていく意味というのは、現時点、こうしたデータで確認いただけるのではないかと思います。

一番下の緑色のグラフがちょこんと上がっているのが DeepSeek です。やはり AI の業界として、DeepSeek のような新しいサービスが次々出てくること自体は歓迎していきべきなのだろうと思っています。

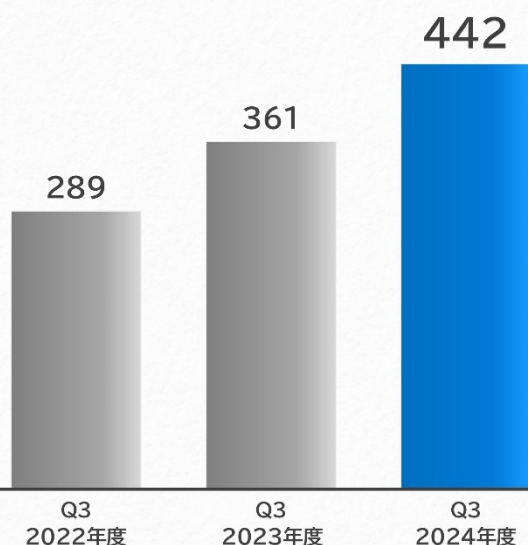


アームです。この四半期も極めて順調です。売上高もロイヤルティー収入も過去最高を記録しています。

調整後営業利益(四半期)(米国会計基準)

arm

(\$ M)



アナリスト
コンセンサスを
上回る

(出所) Arm
調整後営業利益は「Non-GAAP Operating Income」を示す。GAAP基準数値とNon-GAAP数値間の差異については、
アームの「FY25-Q3 Shareholder Letter」を参照。
詳細は、Arm Investor Relations (<https://investors.arm.com/>)を参照。
2024年12月30日時点のアナリストコンセンサス: \$392M (FactSetより)

37

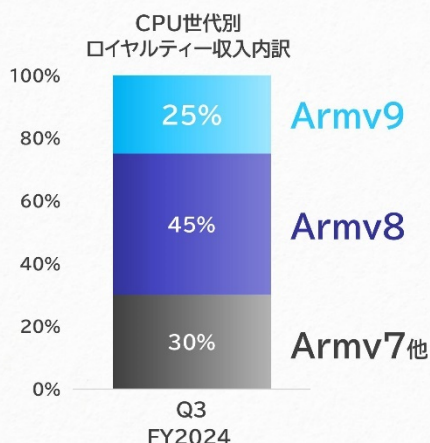
また、調整後営業利益も、アナリストのコンセンサスを上回る数字を実績として出しています。

ロイヤルティー収入の成長ドライバー

arm

Armv9

- ✓ ロイヤルティー単価は、Armv8の約2倍
- ✓ スマートフォンおよびクラウド分野で採用



コンピュート・サブシステム(CSS)

- ✓ 顧客の製品開発時間を短縮し、開発費用を削減
- ✓ ロイヤルティー単価の更なる引き上げを実現可能



(出所) Arm
CSS(コンピュート・サブシステム):検証・統合された複数のアームの技術の組み合わせ
詳細は、Arm Investor Relations (<https://investors.arm.com/>)を参照

38

ロイヤルティー収入の成長ドライバーは、大きく見て二つあるわけです。一つは、Armv9の普及だと思っています。v9は、前モデルのv8と比べて、約2倍のマージンを取りにいけるわけです。ロイヤルティー収入の約25%を占めていますが、この数字はv9がモバイルやクラウドで採用されていることが貢献しています。また、今後さらに普及は拡大していくだろうとも見ています。

また、コンピュータ・サブシステム（CSS）は言ってみれば、複数 IP ライセンスなど、アームのテクノロジーを組み合わせた商品をパッケージで提供しているわけです。従って、これを利用される設計者の方々は、個々の IP からチップを設計する手間がだいぶ省けるだろうと思います。開発時間やコストの削減に加えて、チップそのものの性能も向上していくことになるだろうと思います。この二つがロイヤルティ収入増加の大きなドライバーなのです。

アームテクノロジーの浸透が加速

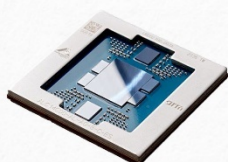
arm

アームベースチップを使った クラウドサービスの一般顧客への提供が進む

AWS

Graviton4

（一般提供：2024年7月）



前世代のアームベースチップと比較して

✓ パフォーマンスが**最大30%**向上

Microsoft CSS採用

Azure Cobalt 100

（一般提供：2024年10月）



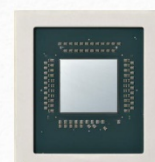
前世代のアームベースチップと比較して

✓ 特定の利用環境で**最大2倍**
性能が向上

Google

Axion

（一般提供：2024年10月）



同世代のx86ベースチップと比較して

✓ エネルギー効率が**最大60%**増

（出所） Arm, AWS, MicrosoftおよびGoogle

39

また、世の中へのアームテクノロジーの浸透はさらに加速しています。アームベースのチップを使ったさまざまなサービスがどんどん提供されています。ここに三つ紹介していますが、AWS の Graviton、Microsoft の Azure Cobalt、Google の Axion には、いずれもアームベースのチップが採用されています。

年換算契約価値(ACV)の推移

arm

ライセンス収入は四半期で変動するも
ACVが示す長期的なトレンドに注目



40

ライセンス収入は契約の締結や更新のタイミング、契約期間などによって、上の折れ線グラフのように若干でこぼこします。なので、これを年換算契約価値 (ACV) という形で計算をし直してみ、棒グラフ化したものが下です。

年換算の契約価値として推移を見ていけば、実は非常に安定的に右肩上がりの成長が実現していることをご覧いただけるかと思います。この ACV が前年度比で 9%増加です。

業績ガイダンス (米国会計基準)

arm

	2024年度(旧)	2024年度(新)
売上高 中間値 前年同期比	\$3.80B ~ \$4.10B (\$3.95B) (+18% ~ +27%)	\$3.94B ~ \$4.04B (\$3.99B) (+22% ~ +25%)
調整後営業費用	\$2.05B程度	\$2.07B程度
調整後EPS (完全希薄化後)	\$1.45 ~ \$1.65	\$1.56 ~ \$1.64

調整後営業費用は「Non-GAAP operating expense」、調整後EPS(完全希薄化後)は「Non-GAAP fully diluted earnings per share」を示す。
詳細は、Arm Investor Relations (<https://investors.arm.com/>)を参照

41

アームが先日行った決算発表で、業績ガイダンスの見直しも発表しています。2024 年度の新しいガイダンスとして、売上高を 39.4 億米ドルから 40.4 億米ドルとしました。調整後の営業費用は 20.7 億米ドル程度と、調整後 EPS は 1.56 ドルから 1.64 ドル。このレンジで発表しているものですから、今回、レンジの上値をちょっと下げています。

ただ、大事なものは中値ですね。それが緑色の中間値です。中値で見ていただければ、39.5 億米ドルから 39.9 億米ドルに成長した数字を新たなガイダンスにしているということを確認いただけると思います。



それでは、Stargate Project について少しコメントしたいと思います。この Stargate Project で AI の発展スピードをさらに速めていきたい。そして、OpenAI がさらに素晴らしいサービスを提供できるように、そのためのインフラ整備を 1 日も早くしていきたいと思っています。

プロジェクト概要

OpenAIのためのAIインフラを構築

Stargate

Chairman: 孫 正義



4年間で\$500Bの投資計画
うち\$100Bの投資開始予定

プロジェクトファイナンスを中心に資金調達予定

2025年1月22日付プレスリリース「Stargate Projectについて」参照

44

プロジェクトの概要としては、SBGとOpenAIの2社がリードパートナーになり、Oracleとアダビの投資ビークルであるMGXの4社（初期投資者として）でスタートしたいと思っています。Chairmanは孫が務めることになっていて、運営面、技術面をリードするのはOpenAIで、SBGは財務をリードしていきたい。

今後4年間で5,000億米ドルの投資を計画していますが、まず1,000億米ドルの投資を開始したいと思っているわけです。5,000億米ドル、日本円にすると約75兆円というのは、ちょっとびっくりする金額になります。ただ、このあと触れますが、何も私たちがこの何十兆円もの資金を自らのアセットや現金で積み上げて使うわけではありません。プロジェクトをしっかりと組んで、参加していただくレンダーの皆さま、そして、エクイティの投資家の皆さまと一緒に進めていくわけです。

AIのための計算能力を順次提供

4年後

投資開始

コンピューティングシステムの構築・運営

45

これからいろいろなデータセンターに取り組んでいこうと思っています。大きさもさまざまです。メガデータセンターとして、Stargate Projectとして取り組んでいく価値のあるものを選びながら、かつ、スピードの速そうなものを選んでいきたいと思っています。

これらを積み上げていった結果、4年後を想定すると、おそらく5,000億米ドルぐらいになっているのではないかと思います。

プロジェクトイメージ

SoftBank Group
ORACLE OpenAI
IIIX

エクイティ出資

Stargate

レンダー／
デット投資家

- ・ 銀行
- ・ 保険会社
- ・ 年金
- ・ ファンド
- など

プロジェクト
ファイナンス

プロジェクト
1

プロジェクト
2

プロジェクト
3

プロジェクト
4

エクイティ出資

データセンター

データセンター

データセンター

データセンター

構築・所有

46

さらに違う見せ方をすると、一番早く来るものをプロジェクト1としましょう。並行して走るかもしれないですが、その次に来るものをプロジェクト2、プロジェクト3、…と、それぞれのプロジェクトがある。

一つのプロジェクトは例えば、アメリカのどこそこ州の何とかというところにこれだけの土地を確保しました。ここでデータセンターの箱をしっかりと作って、そして、その中にチップシステムをしっかりと納入して、そして、そのためには電力の供給も必要だと。これらの全部のプロジェクトを、この Stargate の中でイメージしているわけです。



では、この大きな資金を調達していくかですが、私たち Stargate の参加企業はプロジェクトの総額のうち、エクイティを分担して出していくことになると思います。

その上に、いくつかのトランシェを分けて、リスクに応じたリターンを商品設計しながら、全体のプロジェクトの調達、資金を確保するという形になるわけです。エクイティというのは資本に当たる部分。その上に、例えば優先株に当たるトランシェであったり、また、一番上には一番安全な商品としてシニアデット、一番安全な負債性商品を置きますので、その下にはもう少し返済順位の劣後するメザニンポジションというのを作ったりもします。

それぞれのトランシェに応じた投資家が世界にはいらっしやいます。若干のリスクを許容しても、高いリターンを好まれる投資家もいらっしやれば、一番安全なところをしっかりと大きな金額で投資していきたいというレンダーもいらっしやるわけです。

プロジェクトファイナンスは、だいたいどのぐらいのマーケットなのかも重要なポイントなのですが、2022 年、2023 年のデータだと、1 年間でだいたい 3,500 億米ドルから 3,800 億米ドルという実績です。プロジェクトファイナンスには 1 年間でそれだけのマーケットがあるわけです。

今回、私たちが取り組むのは、AI インフラというインフラを作るためのプロジェクトです。プロジェクトファイナンスを組成する案件には通常、発電施設や通信施設、場合によっては資源から製品を作るというプロジェクトがあります。

インフラに限って言えば、AI インフラという分野は通信インフラや電力インフラに比べればまだ新しい分野です。ですからこの新しい分野にどのくらいの利益率があれば参加できるかについてさまざまな計算をされるレンダーやデット投資家の皆さまが取り組みやすいような商品設計をしていくことで、このマーケットの資金をしっかりと取りにいきます。

マーケットの金額が決まっているわけではありませんので、先ほど申し上げたように、今は年間で3,500 億米ドルや 3,800 億米ドルというプロジェクトファイナンスのマーケットがあったとして、そこに 1,000 億米ドル乗っかることもありえる話だと思いますし、ほかの商品よりも魅力的だと思われれば、こちらを優先して取り組む投資家もたくさんいらっしゃるだろうと思います。

重要なのは商品性だと思います。常にしっかり Win-Win の商品設計をしていくことで、このプロジェクトファイナンスに投資をしたい、さまざまなトランシェを好む世の中の投資家にしっかり対応して、一つ一つのプロジェクトごとに取り組んでいくことで結果を出していきたいと考えています。

従って、私たちの出す資金は、このプロジェクトに関していえば一番下のエクイティのところだけなのです。ですので、私たちは取り組めるわけです。例えば、1 兆円のプロジェクトがあったとき、エクイティに当たる部分は、案件によりますが、10%から 20%程度のポーションになるわけです。

1 兆円の案件があって、エクイティが 10%だとすると 1,000 億円です。その 1,000 億円を 4 社で分け合うわけです。私たちが 1,000 億円全部やるわけではありません。何百億円かはやるでしょう。でも、そういった金額にとどまるわけです。こうした計算をしながら、想定はできるかもしれません。

今年 1 年間でもし 1,000 億米ドルというプロジェクトが実際に組み立てられたならば、われわれはどのくらいのエクイティを入れるのかということ、実はその金額というのは、私たちの通常の財務活動の中でしっかり財務ポリシーを守っていきながら収まるのです。そういう運営を、これからもしっかりやっていきたい。

これまで投資家の皆さまにお約束してきたような財務ポリシーは、しっかりと強く意識しながら、これからもやってまいりたいと思います。

主要テクノロジーパートナー

業界の主要企業がプロジェクトに参画

arm



Microsoft



nVIDIA

ORACLE

OpenAI

主要テクノロジーパートナー：プロジェクト公表時点(2025年1月21日)

48

技術パートナーは、私どものアームを筆頭に、この世界のリーダーとなる NVIDIA や Microsoft、Oracle も OpenAI と一緒に参加していただくことになると思います。

2025年2月3日 戦略的パートナーシップ発表

SoftBank
Group

arm

SoftBank



OpenAI

2025年2月3日付プレスリリース「OpenAIおよびソフトバンクグループが提携し、企業用最先端AIを開発・販売することに合意」参照

50

次に、クリスタル・インテリジェンス。2月3日、孫が久しぶりに皆さまの前でお話した内容ですが、OpenAI のサムにも来日いただき、戦略的パートナーシップを日本で発表させていただきました。SBG とアーム、通信会社の SBKK、そして OpenAI が、一緒になってこの案件に取り組んでいく所存です。

法人向けAIエージェントの普及を加速

Cristal

個々の企業の全てのシステム、データを安全に統合し、
企業ごとにカスタマイズされた最先端AI

AIエージェント＝環境を認識し、判断し、学習して行動できる自律的なAIシステム

51

法人向け AI エージェントの普及をとにかく加速させたい。このプロジェクトを通じて、個々の企業のすべてのシステムやデータを安全に統合していくことで、企業ごとにカスタマイズされた最先端の AI を提供していきたい。これを行うことで、企業経営の高度化、スピードアップに大きく貢献できるのではないかと考えています。

企業経営の中核に

企業の全情報

- ・メールデータ
- ・商談履歴
- ・会議資料・議事録
- ・コールセンター履歴
- ・システムソースコード
- ・提案書・仕様書
- ・クラウド上のデータ
- ・映像情報
- ・

投入



あらゆる業務を
AIエージェント化し
自律的な業務遂行を
実現

企業のシステムを 自動化



まずソフトバンク、アーム、LINEヤフー、PayPay、ZOZOなど
SBGグループ各社にも導入:年間利用料\$3B

年間利用料\$3B: ChatGPT Enterpriseなどの競争ツールの利用料も含む。

52

少し具体的に描くとこんな形です。企業が普段、どんなことをしながら情報を集めて経営の意思決定をしているかと申しますと、左の四角の中になるわけです。オペレーションもそうです。さまざま

まなデータがあります。メールのデータはもちろん、さまざまな訪問、商談の履歴、それからシステムのソースコードも大きい。いろいろあります。こういったものすべてを、このクリスタル・インテリジェンスに投入していきたい。

これらのデータをすべて受け取ることでクリスタル・インテリジェンスが学習し、推論の質、レベルを上げていきます。その結果、企業は右側のように自動化されていくわけです。経営企画やマーケティング、財務、技術、法務など、すべての業務を AI エージェント化していくことで、企業のシステムは自動化していくわけです。

これは一度、思い切りかじを切って、1 回すべてのデータを入れてみないといけないわけです。そのために、まずソフトバンクグループが第 1 号としてやってみたいと思っているわけです。

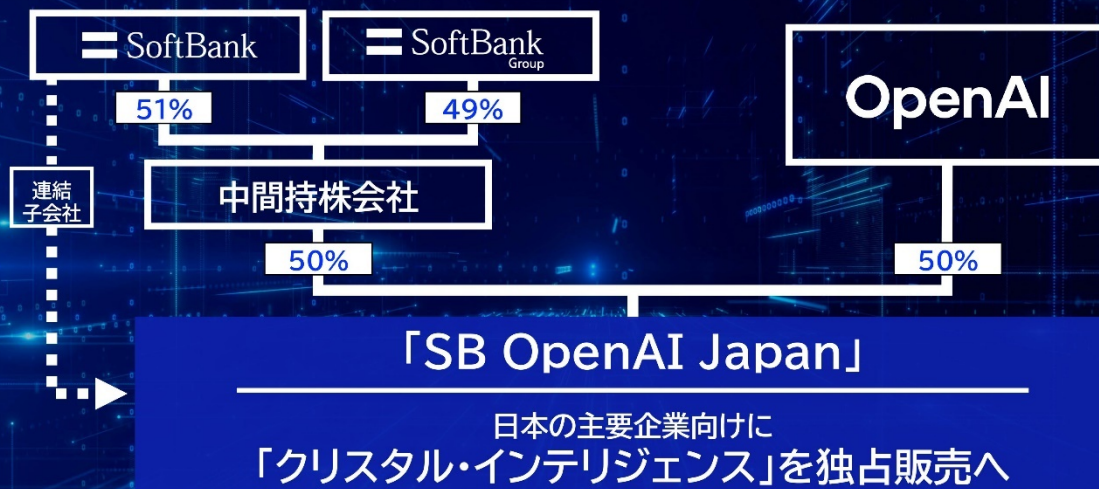
振り返ること、もう 17～18 年前になるでしょうか。iPhone を導入する際にも、われわれはグループ全社で、とにかく思い切ってそれまでの端末から iPhone に切り替えなさい。iPhone を使って業務を行いなさいと。また、ペーパーレスもやるべきだと、本格的にやりました。

とにかく目の前から紙をなくさなければいけない。隅々まで徹底して、コピー機の数思い切り減らして取り組んだ歴史もあります。そういう過去にも学びながら、まず私たちがグループ各社でこのサービスを使って、使い勝手をよく理解する。そして、しっかりお客さまに提案できるようにまずわれわれが成長した上で、日本での販売を行う通信会社の SBKK に、多くの顧客にあたってほしいと思っています。

今回、年間使用料として 30 億米ドルを SBG で元請けしますが、サービスが具体化してから、グループ各社に使ってもらいたいと思います。そしてそれぞれ使った分、私たちが使用料をいただくと思います。どういう形でどの会社がどのくらい使うかはまだまだこれからことです。

実際の出来上がってくるサービスの中身なども全員でしっかり考察しつつ、この分担の比率とか、そういったものは決めていきたいと考えています。

日本展開のためにJVを設立

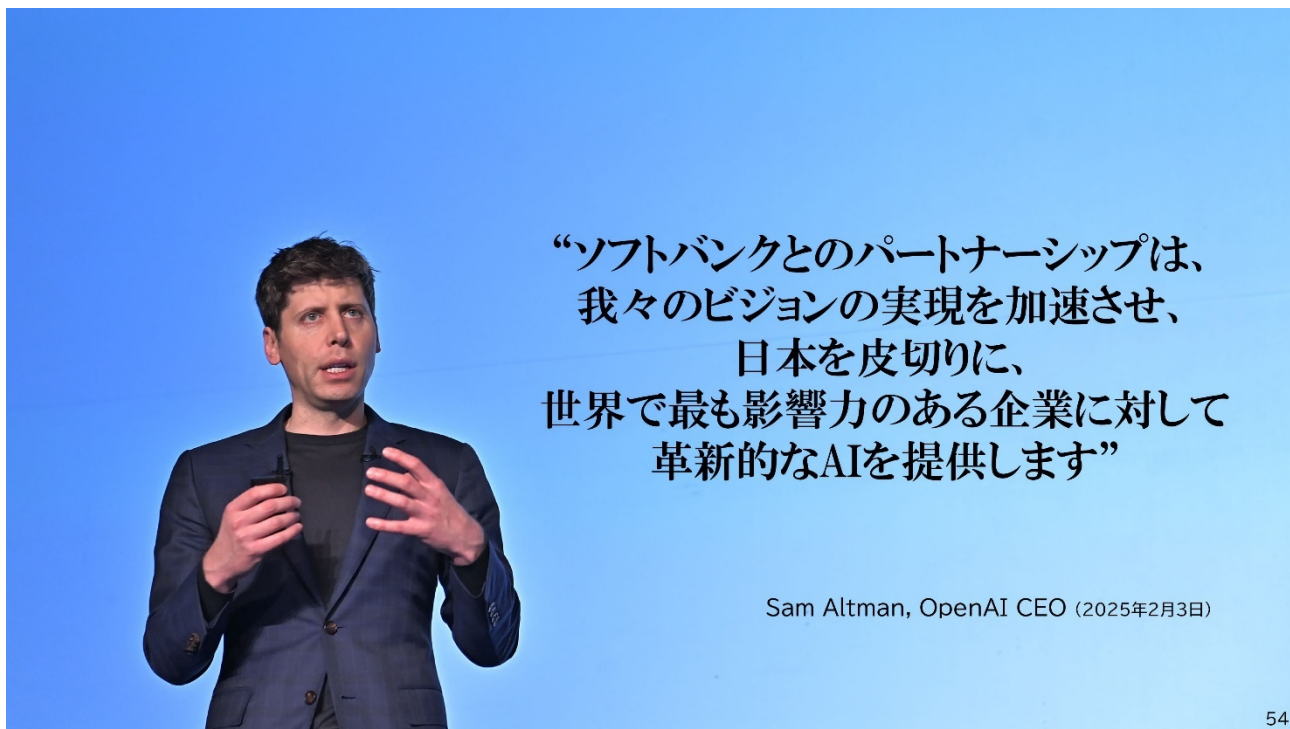


日本のあらゆる産業における企業変革を目指す

53

展開のためのストラクチャーとしては、OpenAI とソフトバンクグループが 50% ずつの JV を作るわけですが、ソフトバンクグループ側は持株会社である SBG と、通信会社の SBKK がそれぞれ出資します。SBKK が 51% 出資しますので、この SB OpenAI Japan という会社は SBKK の連結子会社になると思います。

この座組みで何とか早く取り組めるサービスを開発して、まずは日本から、あらゆる産業における企業変革を目指していきたい。SBKK がその独占販売にしっかり取り組むことで、SBKK もさらに大きく発展していくだろうと信じてやみません。



当日、サムにもこのように日本で語っていただきました。ソフトバンクグループとのパートナーシップにより、日本を皮切りに世界で最も影響力のある企業に対して、革新的な AI を提供していきたいと。この言葉どおり、良いサービスを 1 日も早く提供していきたいと考えています。

財務方針の堅持

- 1 通常時 **LTV25%未満** で運用（異常時でも上限35%）
- 2 少なくとも **2年分の社債償還資金** を保持
- 3 SVFや子会社から **継続的な配当収入** を確保

56

最後に財務戦略です。変わらず財務方針を堅持していきますと申し上げておりです。安全性の指標としての LTV は、基本 25%未満での運用をしっかりとオペレーションしていきたいし、少な

くとも2年分の社債償還資金は手元でちゃんと維持をしていきます。グループ会社からの配当も強く意識して配当の収入も確保していきたい。この三つ、しっかり取り組んでいきます。

2024年度の財務戦略

財務理念

投資戦略と
シンクロした財務運営

財務原則

- ・財務方針の堅持
- ・あらゆる環境変化へ柔軟に対応
- ・各ステークホルダーとの信頼関係構築
(株主還元と財務改善の最適なバランスを追求)

2024年度 財務戦略

将来NAV拡大のための成長投資を最優先

1. 潤沢な手元流動性の有効活用
2. 戦略投資を支えるノンリコース調達 of 積極活用
3. ポートフォリオのモニタリング強化→回収と再投資

57

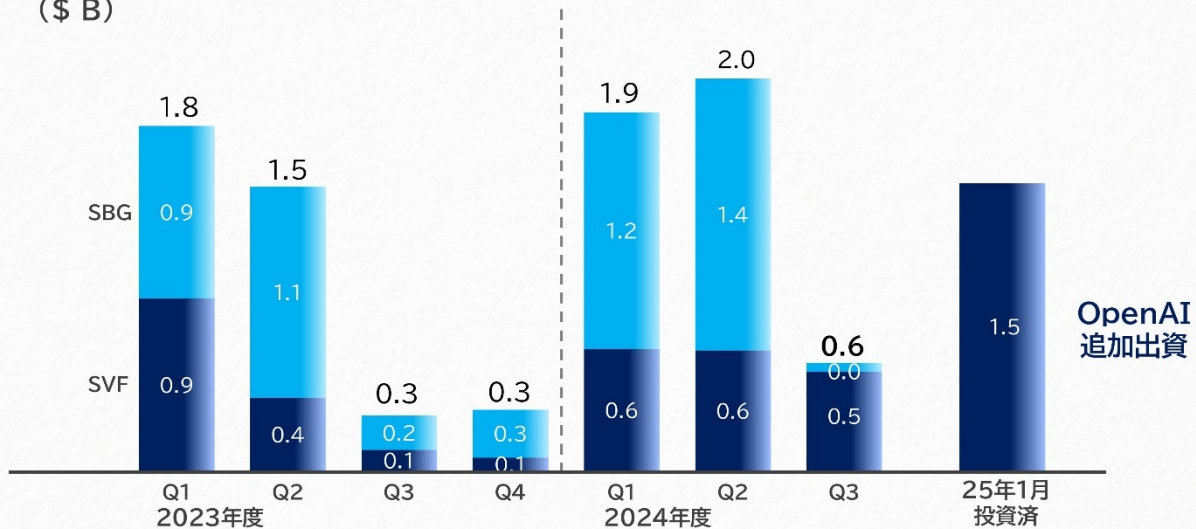
今年度の財務戦略のテーマです。財務理念は変わりません。私たちの財務部門の一番のミッションというのは、経営とシンクロすることです。経営はさまざまな動き方をします。そこに財務部門として、まずスピードで負けない。必ず同じスピードで走って、縦パスを渡せるような距離感で走っていく。ただ財務部門が守るべきものをしっかり守るということも、経営と寄り添うということです。そこを守りつつ、でも、できるだけ攻めていきたい。

特に今年度の財務戦略としては、将来的なNAVを拡大していくための成長投資を今やるタイミングだと。それはまったく変わりません。その展開の仕方の一つが、OpenAIでもあるし、そして、Stargateでもあるし、そして、クリスタル・インテリジェンスでもあるということです。

まだこれはわれわれが目指す山を登っていくにあたって、まだまだいくつかの入口を示したに過ぎないです。さまざまな登山口を、さまざまに探していきたい。目指すところは一つです。そういった方向に向かって進めていきたいと思います。

投資額 (SVF+SBG)

(\$ B)



SBG投資額: SBGおよび主な100%子会社からの投資額(米国債への投資を除く) + Berkshire Grey (2023年度Q2)、Balyo (2023年度Q3)、SBE Global (2024年度Q2)およびGraphcore (2024年度Q2)の子会社化に伴う外部株主への支出額と各社が保有していた現金及び現金同等物との差額、グループ内取引に伴う投資額を除く。
SVF投資額: SVF1、SVF2およびLatAmファンドにおける新規および既得投資先への追加投資の合計。株式交換を含む。SVF内での移管およびSBGからSVF2への移管に伴う投資額を除く(詳細は2024年度Q3決算短信15ページ参照)。
2024年度Q3にSVF2が\$280Mで取得したPayPayの新株予約権をはじめとするデリバティブへの投資額を含まない。

58

投資額も第3四半期だけの数字を見ると6億米ドルと、第1四半期、第2四半期よりちょっと少なめですが、1月に15億米ドルを投資しているので、あまり変わらないです。やはりだいたい20億米ドル前後ぐらいの投資というのをやっていきたいと思っています。これから少し加速する可能性はあります。Stargateの発表もしていますので、プロジェクトの発展次第かなと思っています。

自己株式の取得

最大
5,000億円 (2025年8月7日まで)

取得済
(2024年8月～2025年1月)

2,099 億円

42%進捗

最大5,000億円: 2024年8月7日の取締役会で決議された自己株式の取得枠
詳細は、2024年8月7日付プレスリリース「自己株式取得に係る事項の決定に関するお知らせ」を参照

59

自己株式取得は、しっかりと着実に取り組んでいます。42%進捗し、2,000億円強まで取得が進んでいます。5,000億円の枠に向けて頑張っていきたいと思っています。

2024年度第3四半期まとめ

- 1 NAV29.3兆円、LTV12.9%、いずれも安定的に推移
- 2 手元流動性は9月末比1.2兆円増の5.0兆円に
- 3 4-12月期の純利益6,362億円(前年同期比1.1兆円改善)
- 4 25年1月にStargate、2月にクリスタル・インテリジェンス発表

純利益:親会社の所有者に帰属する純利益

60

まとめは冒頭のとおり、以上4点です。



61

ASIの実現。こういった大きなビジョンを絶対に実現したい。その実現するトップグループの一員として、さまざまな取り組みをこれからも展開していきたいと思っています。



しっかりと山を登っていきたいと思います。ありがとうございました。

